新エネルギーの推進ビジョンに向け政策提言

「攻め」の導入目標を

後藤は、9月議会の一般質問でも取り上げ、リベラル群馬の予算提言でも柱としている新エネルギーの推進について議論。

県は「太陽光・水力・バイオマス（生物由来という意）発電の2015年までの導入目標を定めるとしています。後藤は、いずれも本県が豊富に持つ資源であることから、①「攻め」の導入目標を設定すべき。②その実現のための実効ある施策を裏付けるべき、と提言。

これに対し県も、①姿勢を示す意味で高めの目標を設定する。②実現に向けて毎年度の取り組みを行程表で示す。と答弁し、意欲的に取り組む決意を示しました。

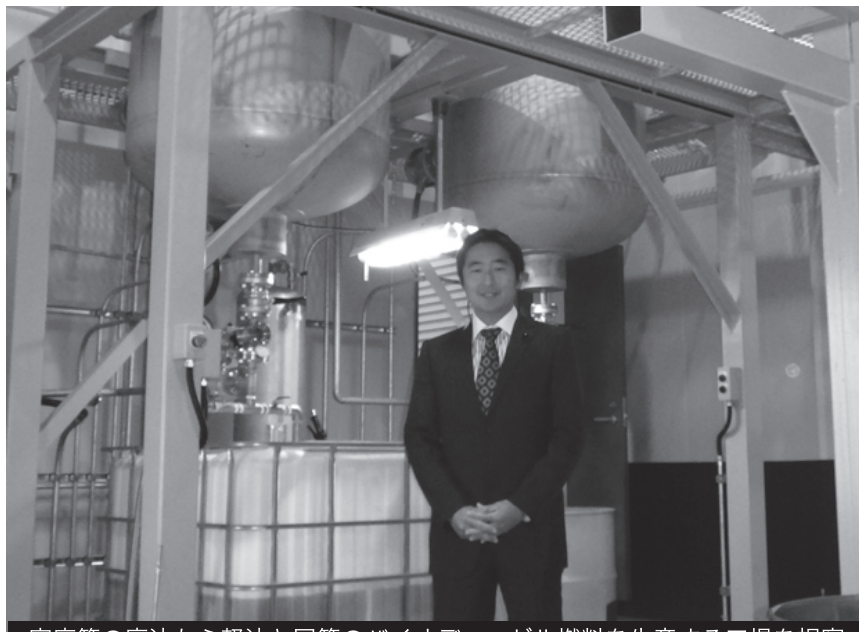
家畜の糞とメッキ廃液から電力とレアメタルを生み出す画期的な装置を視察

バイオマスエネルギーの推進を

後藤は、秋以降、バイオマスエネルギーの推進について重点的に視察研究を重ねてきました。群馬県は林地残材（山に放置されている伐木等）の木質バイオマス資源に加え、全国4位の畜産県であることから、家畜の糞等の畜産バイオマス資源が豊富であることが強みです。また、家庭等の廃食油を地域で資源として回収する運動も盛んに行われています。

いずれにも共通しているのは、処分に困る「やっかいもの」を「エネルギー資源」に変えるという発想であることです。重要なのは、これらを化石燃料の代替として用いることで、温暖化対策にも繋がるだけでなく、農山村地域の活性化や雇用創出にも繋がる大きな可能性を秘めているということです。

後藤は、写真にある産学官連携により開発した施設を視察した上で、これらの実用化・普及を行政が強力にバックアップすることにより、バイオマス先進県を目指すべきと提言しました。


家庭等の廃油から軽油と同等のバイオディーゼル燃料を生産する工場を視察

議会改革 海外視察復活に慎重対応を求める

現在、県議会では自民党を中心に「海外視察復活は当然」というキャンペーンが盛んに行われています。しかし、震災後の深刻な社会状況を考えれば、県民から「空気の読めない県議達」と捉えられかねません。

後藤は、9月の一般質問でも、反対・慎重の立場を明確に主張しましたが、十一月十六日に、若手議員を中心とする3会派で改めて慎重な対応を議長に対し申し入れました。

海外視察の再開 慎重対応申し入れ

議長に県議会3会派

県議会が再開するかどうか協議している委員会の海外視察について、リベラル群馬、新星会、爽風の3会派は16日、再開は「社会情勢を考慮しない議員特権の復活と捉えられかねない」として、南波和憲議長宛に慎重に対応するよう申入書を提出した。3会派は海外視察を行なう場合、政務調査費を活用すればいいと主張している。

委員会の海外視察は民放テレビで批判的に報道された事などを受け、2005年度を最後に行なわれていない。

11月17日
上毛新聞より抜粋

地域活動ミニ報告 八幡地区

老朽化が進んでいた歩道橋の補修・塗装工事を実施（下大島町）

群馬八幡駅前から西に向かう県道の拡幅工事が開始。安全に歩行できる道路に。